

生物多様性保全への取組み(7)

■ 日本中のソメイヨシノは全部クローンって本当ですか(Q)

江戸時代につくり出され、挿し木、接ぎ木で日本中に増えていったようです。

- 日本には、ヤマザクラ、オオシマザクラ、エドヒガシなどの多くのサクラが生育し、園芸品種も合わせると600種類以上のサクラがあるといわれています。春が来ると一斉に咲いて散ってゆくサクラの花。卒業式や入学式などの思い出とともに記憶している人も多いと思います。中でもソメイヨシノは、公園や学校、道路の並木など、我が国で最も多く植えられているサクラです。毎年春になると桜前線の北上や桜の開花予想が話題になりますが、このサクラはソメイヨシノを指していることが多いようです。
- ソメイヨシノは、エドヒガシとオオシマザクラの雑種を起源とする可能性が高いといわれています。江戸時代に江戸の染井村(現在の東京都豊島区)の庭師や植木職人たちによって育成され「吉野桜(ヤマザクラの意)」として売り出されていたものが、やがて「染井吉野(ソメイヨシノ)」と命名されたといわれています。
- ところで、ソメイヨシノは芽の出る種子をつくらないことをご存じでしょうか？花の咲く植物は、通常、同じ種類同士の花粉がめしべにつき受粉することで種子をつくり子孫を増やします。しかし、ソメイヨシノの場合、原因ははっきりしないようですが、異なる種を交配させよい花を咲かせるものを選抜する品種改良の過程で種子繁殖ができなくなったと考えられています。
- 種子でなければ、どうやって増やしているのでしょうか。ソメイヨシノは、若い枝を地面に挿して発根させたり(挿し木)、ヤマザクラなどの別のサクラの木にソメイヨシノの枝を接いだり(接ぎ木)して増やすことができます。古くから親しまれ日本中に植えられているソメイヨシノは、元々は同じ木を挿し木や接ぎ木で増やしたため、遺伝的にはすべて同じである可能性が高いと考えられています。
- なお、ソメイヨシノは他の種類のサクラと交配すると芽が出る種子をつくることもあり、さまざまな園芸品種がつけられています。また、ソメイヨシノでたくさんのサクランボが^ナ生っているなかには他の種類のサクラと交雑してできたものも含まれているのかもしれません。

—出典:生物多様性100問—